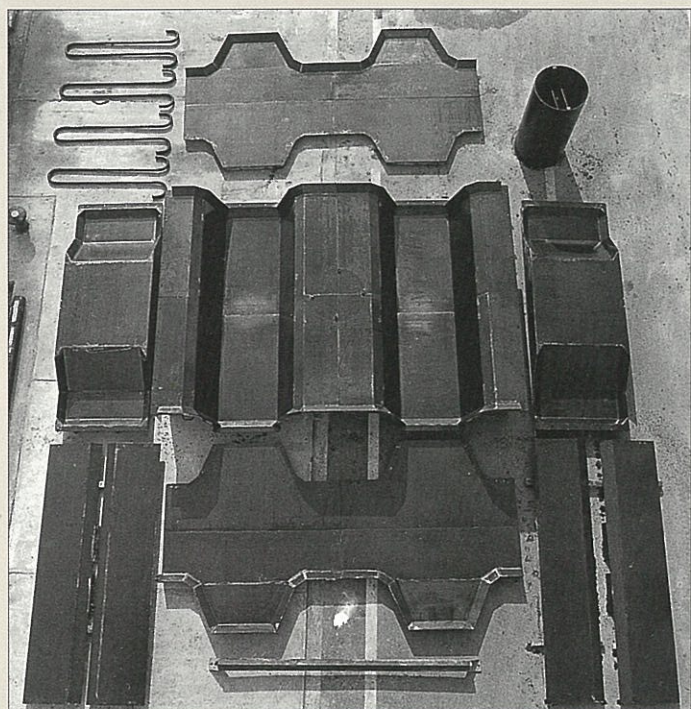
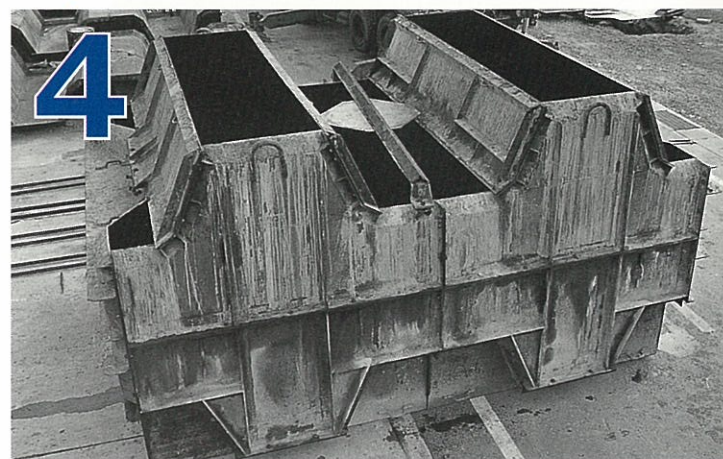
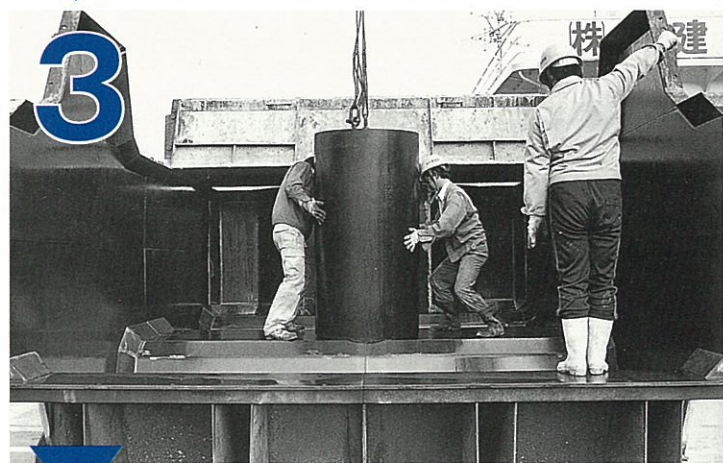
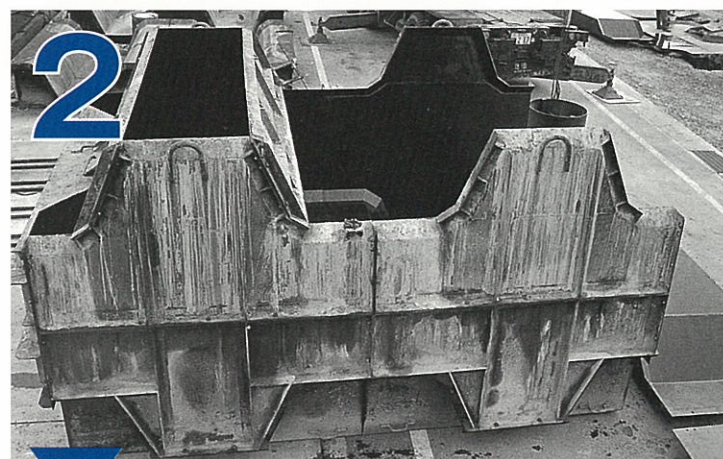
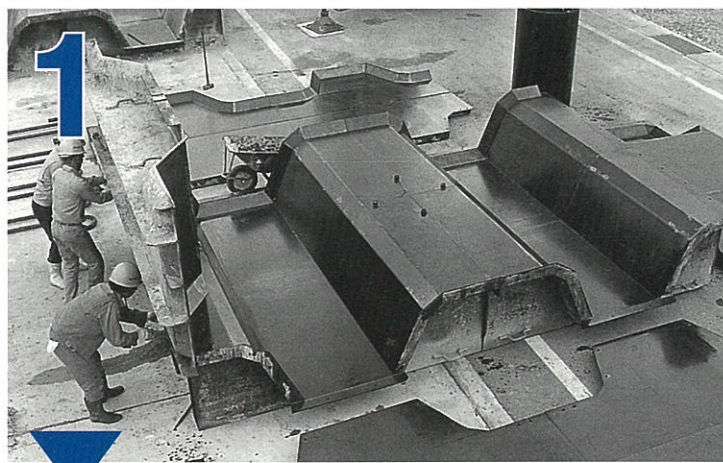


製作手順

ビーハイブの特長は、重心が低く、安定性に優れ、波力、流水のエネルギーを吸収分散し易いことです。また、製作、施工が容易で経済性が高いことです。

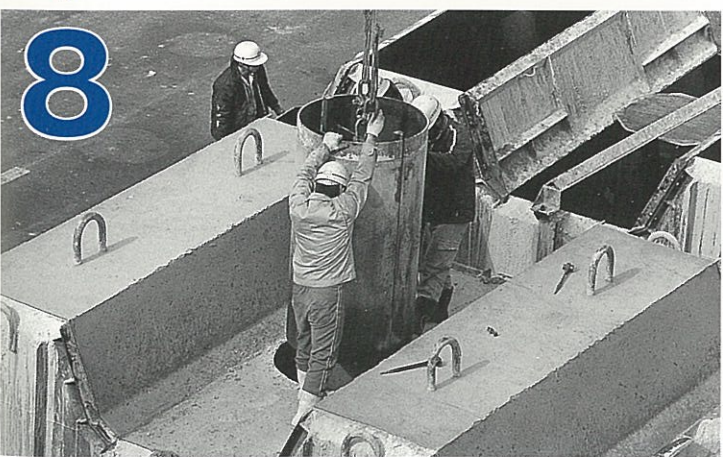
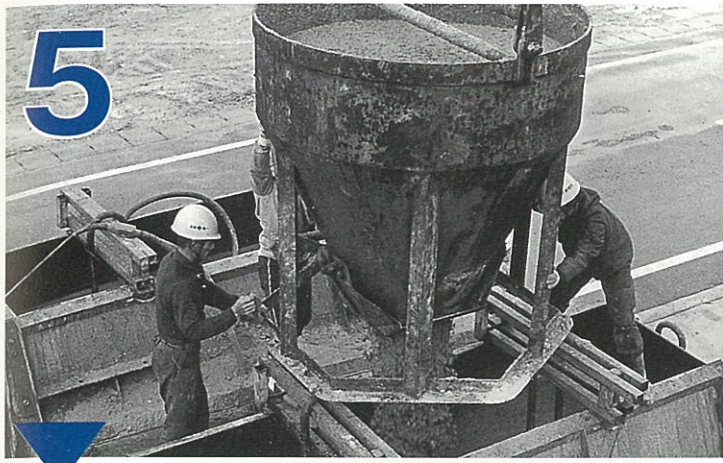


型枠部品

①底板 ②側板 ③横板 ④仕切板(外) ⑤仕切板(内) ⑥筒 ⑦押板 ⑧吊り筋

●型枠質量

公称t数	型枠分解 最大質量	型枠組当 質量
20t	391.5 ^{kg}	3857.9 ^{kg}
25t	407.2	4166.3
30t	475.0	4764.1
35t	524.7	5217.3
40t	667.5	6874.0
50t	903.3	8331.6
75t	1050.0	9684.5



製作ヤード

製作ヤードは諸作業が安全確実かつ能率的に行える広さとし、十分に整地を行います。製作ヤードの所要面積は、現地条件により異なりますが、基本的には次式で求められます。

ここに

$$S=S_1+S_2+S_3$$

S : 製作ヤードの所要面積

S₁ : 打設ヤードの所要面積

S₂ : 仮置ヤードの所要面積

S₃ : 作業道路の所要面積

(1) 打設ヤード

型枠の組立、コンクリート打設、型枠の脱型作業に要するヤードで次式で与えられます。

ここに

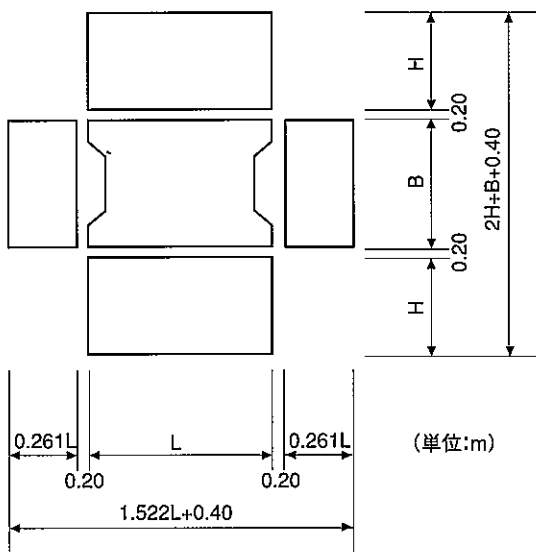
$$S_1=M \cdot a_1$$

M : 型枠組数

a₁ : 型枠1組み当たり展開面積

a₁の標準値は表に示した値となります。

名称	公称 t	20t	25t	30t	35t	40t	50t	75t
a ₁ (m ²)		33.59	38.58	43.25	47.64	51.81	59.63	77.14



(2) 仮置ヤード

脱型後、据付までの養生期間中ブロックをストックするためのヤードで次式で与えられます。

ここに

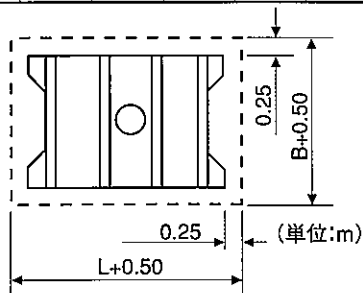
$$S_2=N \cdot a_2$$

N : ブロック製作個数

a₂ : 仮置時ブロック1個の占有面積

a₂の1例を表に示します。地盤強度や整地状況などを考慮し、安全を確保できる範囲でブロックを積み重ねて、ヤードを減らすことが可能です。

名称	公称 t	20t	25t	30t	35t	40t	50t	75t
a ₂ (m ²)		10.58	12.00	13.32	14.56	15.73	17.92	22.78



(3) 作業道路

ブロックの製作に用いる車両の作業・移動等のためのヤードで、上記各ヤードの形状・配置、使用する車両の大きさ等で所要面積は異なります。

(4) 製作ヤード所要面積計算例

・ブロック規格 : 30トン

・製作個数 : 100個

・型枠組数 : 10組

・仮置時積段数: 1段

・作業道路幅 : 6m

打設ヤード

$$S_1=10組 \times 43.25m^2=432.50m^2$$

仮置ヤード

$$S_2=100個 \times 13.32m^2=1332.00m^2$$

作業道路 (図の配置の場合)

$$S_3=6.0 \times (34.85+56.64) = 548.94m^2$$

よって所要面積は

$$S=S_1+S_2+S_3=2313.44m^2$$

